

◆ 集成材(積層材)・化粧貼り(練付け)

木肌を愛する国民性のある程度満足させることができるようになったきたのが、化粧貼り(練付)をはじめとする造作用集成(積層材)および構造用集成材等ではなからうか。

近年の合成樹脂接着剤の普及は木材工業に一大改革をもたらし、加工技術の進歩発達(材の繊維密度や接着面の加工等)による木材の有効利用と相まって、すぐれた化粧貼りや集成材が生産されるようになった。

集成材は加工技術の進歩発達により発生した様に思われているが決して目新しい材料工法ではない。古来から寄木加工により大きな部材として使用されてきた。古くは「東大寺大仏殿の内部の柱」寄木加工し金物の緊結した柱が使われていたり、板材で長い材を必要とする場合など 剣山継ぎ (ウインガー継ぎ) 胴付鋸のみにて(匠の技)加工し接合したら二度と外れなものであった。

わが国の住宅建築に集成材が登場するようになってから40年余の経過を持ち、最近では木造住宅、大型建物等に使用され、また鉄筋コンクリート造等の建物などの内装造作材としては非常に多く使われている木質材料のひとつである。これは、狂わないこと、丈夫で強いこと(構造用集成材は、同一樹種製材品(少しむらがある)の約1.5倍の強さをもつ)、などが特長として評価されたからであろう。

◇ 仕上げ工事の考え方

※計測・計算(積算)については、凡てをもうらし、(見積落しがない様、後戻りしない様に)「部分別方式」・「工区別方式」とすること。建物構造にかかわらず、積算方式は凡て同じ方式とする。

○仕上げの区別

- 間仕切下地 ―― 「準躯体」。各部屋・附属部位・各部位などを区画する壁下地。(骨組下地)

※木造建築(住宅)の場合は基本的には構造軸組とする。なお腰出し壁下地や階段廻り腰壁下地等を再チェックしておくも。

- 仕上げ ―― 仕上げとは構造体(躯体・準躯体)を被う「保護」や生活室間を「意匠・装飾」を施し、その他の目的による材料や製品・器々類の「塗り付け」・「塗装」・「取り付け」・「張り付け」などやまた構造体や外装材等の「表面加工処理」などを云う。

○仕上げの区分け

- 内部仕上げと・外部仕上げに、区分けすること。

仕上げは作業・積算上、建築物の内外を遮断する面を基準とし、内部仕上げと外部仕上げに区分けする。内外を遮断する金属製枠・建具の場合の金属部材は外部仕上げとする。